

「第二回生徒による授業評価」アンケート分析・結果について

標記の結果がまとまりましたのでご報告いたします。このアンケートは生徒自らを振り返る部分と、授業を評価する部分とから成り立っています。保護者の皆様におかれましても、このアンケートを一つの材料として、授業のみならず学校生活全般についてお子様と話す機会を設けていただき、率直なご意見・ご感想をお寄せいただければと存じます。なお、授業評価アンケートの集計結果を本校ホームページにも掲載しております。合わせてご覧ください。

本校ホームページ：<http://www.ikutahigashi-h.pen-kanagawa.ed.jp/>

「生徒による授業評価」アンケート分析結果と今後の対応

国語科	第1回に比べ、すべての項目で「とてもよくあてはまる」の率が上昇しており、ほとんどの項目で「全くあてはまらない」の率が下降している。前回のアンケートの結果を踏まえて見直した教材の精選、生徒同士の学び合いの時間の確保、反復学習の強化といった取り組みが、生徒の学習意欲の向上や学力の定着につながっているのではないかと考えられる。今後は、授業の理解度についての項目をより伸ばしていきたい。教材から学んだことが人生や社会とつながるといった実感を持たせることも必要不可欠である。様々な学びの形式・手段の工夫に加えて、何を学ばせるかという原点を改めて見直し、生徒の意欲を喚起し生徒一人ひとりが達成感を得られるように努力を重ねていきたい。
地歴・公民科	授業に対して意欲的に取り組んでいる生徒が少し増えた。それは、質問8と質問9において、「とてもよくあてはまる」と答えた生徒が増えたことに伴う結果であると考えられる。しかし、全ての質問において「あまりあてはまらない」と「まったくあてはまらない」の割合の合計が増えていることから、地歴公民科を苦手としている生徒の取り組みを改善できていないことが分かる。地歴・公民科を苦手としている生徒も積極的に授業に取り組めるように教材を工夫し、興味を引き出す必要がある。その中でICT機器の利活用も行き、言語活動を促進できるよう、生徒同士の話し合う機会を多く設け、単純な暗記作業のみにならないよう授業づくりをしたい。
数学科	第一回目に比べて、「中だるみ傾向」の時期にあるようで、「意欲的な取り組み」や「積極的な態度」など前向きな取り組みが若干下がっていたことがわかった。ただし、理解度に関する意識は変わっていない。また、授業の展開については、「授業の工夫、授業の進行、表現、説明」については、第一回目同様の評価となっているものの、「自ら取り組む授業展開」や「個別指導」については、プリントなどの教材の精選や授業展開の工夫をさらにに行い、授業へ向きやすい展開を心掛ける。1年生については「数学Ⅰ」の習熟度別授業を中心として、今後も生徒一人ひとりの理解力に応じた指導に努めたい。また2年「数学Ⅱ」については、個人差が一層現れるので、習熟度の差に対応できる教材の選定に留意したい。
理科	ほぼすべての科目について、多数の生徒が意欲的に取り組んでいると判断し、授業内容に対してもかなりの生徒が高い評価（3または4）をつけた。しかし、その一方で「理解できている」や「発表する機会がある」ことについて高い評価（3または4）を付けている割合は少なくなっている。ただ、授業のわかりやすさや丁寧な指導の項目での評価が高いことから、理解できない時点で質問したり復習に取り組んだりする姿勢を追求するなどといった取り組みに結びついていないことが考えられる。少人数編成となっている3年生対象の科目はいずれも評価が上がっていることから、選択科目としてのきめ細かい指導が必要であり、いずれは少人数編成も視野に入れた教科指導を導入すれば効果的だと思われる。
保健体育科	近年、生徒の意欲が高まってきているように思われる。授業への取組や授業内容などの項目においても約90%の生徒が「あてはまる」と回答しており、この結果から、体育科として掲げる「生涯体育」を意識しての取り組みは本校の生徒に適したものであり、生徒は積極的に授業に取り組むことができていると考えられる。ICT機器を取り入れた授業も一部展開しているが、その効果を分析していかねばならない。良ければ徐々に広げていきたいが、機材や技術の面からも課題が多い。運動嫌いな生徒を運動好きにしていきたいために、用具や指導方法の工夫などを行い改善していきたい。
外国語科	授業に対しては、90%を超える生徒が意欲的に取り組み、自主的に学ぶ努力をしている。今後もこの状況を維持しつつ学力向上へと繋げていきたい。授業の内容については、どの項目についてもおおむね90%の生徒が、「とてもよくあてはまる」または「だいたいあてはまる」と回答していることから、生徒の実態に即した授業が成り立っていると考えられる。今後も授業の中に積極的にグループワークやペアワークを取り入れ、生徒同士の作業を通じて共に学ぶ体制を実現できるよう努力をしていきたい。またICT機器などを積極的に取り入れ、生徒の関心をひきつけつつ、効果的に学力向上を図っていきたい。
家庭科	今年度は、1、2年ともに、学年を分割し半年ごとに分野を入れ換えての学習であった。例年は、実習が多いという理由で、第二回のほうが「意欲的に取り組む姿勢」が多くみられるが、今年は、その傾向が見られず、第一回よりも「意欲的に取り組む姿勢」が少なくなった。クラスの増加と実習時間の増加に対応するために、年間指導計画を変更したことで、体系的な学習が崩れたのではないかと考えられる。そのため、生徒が学習に対する意欲を保ち続けることができなかつた。体系的で、学習の楽しさが伝わり、学習に対する意欲が継続するような年間計画へと改善していきたい。
芸術科	生徒とのコミュニケーションもできてきたのか、おおむね生徒の満足感が伝わる数字である。しかし、実技科目なので自ら作業しているはずであるにもかかわらず、あてはまらないと思う生徒がいる。今後も生徒がやる気を持って積極的に自分から取り組む姿勢を持てるように教材内容及び指導法などに様々な工夫をし、きめ細かい指導を目指していく。また、自ら作業に取り組んでいると思われるような進め方や、課題を考慮していく。また、生徒の様子を丁寧に観察し、少しでもモチベーションが上がる授業を心掛けたい。
情報科	「理解できている」や「理解度にあわせて」の項目で、顕著に数字が下がっている。また、「発表する機会がある」も下がっている。「発表する機会」については、2学期は個人での作品制作の実習を最後に行ったためと考えられる。ただ、作品制作も自己表現の一つであり、自己表現やその相互交流の機会も多く用意されていることに変わりはない。「理解度」や「理解にあわせて」については、改善を行いたい。また、今後は振り返りや理解度のチェック、復習を行える活動を十分に取り入れるようにしていきたい。